

本誌で6年ぶりに「肥満」を取り上げた。その理由は6年前に比較して肥満と消化器疾患との関連性、さらに消化器癌発症との関連についてもますます注目されているからである。特集の構成としてはまず、「肥満」の基礎について論じていただいた。内容は肥満の定義、問題点、さらに発症機序についてである。わが国において「肥満」とはBMIが25以上の過体重の状態で、「肥満」の上にさらにメタボリック症候群を合併する、あるいは内臓脂肪型肥満の場合は「肥満症」と定義している。「肥満症」の概念は欧米にはなくわが国独自の考え方だが、より高度な健康被害を生じる可能性が大きいことが示唆されている。「肥満症」に入る内臓脂肪型肥満は、皮下脂肪型と比較してさまざまな健康被害を生みやすく動脈硬化性疾患以外に消化器疾患の合併も多いので、肥満のタイプにも注意を払うべきことが示唆されている。また肥満と全身性疾患との関連では、その病態として、脂肪細胞が内分泌細胞としてレプチンやアディポネクチンなどのペプチドホルモンやTNF- α 、IL-6などのアディポサイトカインを産生・分泌することも示されている。これらのホルモンやサイトカインが全身にて慢性炎症を誘発することになり、その結果、多くの臓器にて発癌性を高めていることも論じられている。すなわち、肥満が全身性の慢性炎症を生じる基盤となっていることも肥満を解消する理由となっている。次に、消化器疾患において肥満との関連性が示唆されている各臓器の良・悪性疾患についても論じていただいたが、さらに注目すべきは肥満が腸内細菌によって誘発されている可能性があることである。腸内細菌への介入が肥満解消に向けた治療となる可能性が示唆されており、便移植も治療の一つだが、今後新たな腸内細菌への介入が肥満治療として開発されることも夢ではないと思われる。この分野は消化器医が先頭になって研究し、診療することになることを期待したい。

以上、今回の特集ではそれぞれの分野でわが国の指導的立場にある先生方に執筆をお願いしたところご快諾いただき、肥満学の基本から最先端の研究内容まで論じていただいた。消化器医の肥満診療への参入にガイドとなる充実した特集が完成したことを、執筆者の先生方に衷心より御礼申し上げます。

(屋嘉比康治)

臨牀 消化器内科® Vol. 34 No. 4

©2019年3月20日発行

定価(本体3,000円+税)

年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、書店または弊社までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904

e-mail info@nmckk.co.jp

編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377

e-mail gastro@nmckk.co.jp

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 三報社印刷株式会社

・Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2019. Printed in Japan

・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■広告申込所/日本医学広告社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-12-8 電話 03-5226-2791